

★トランプ大統領がベネズエラ侵攻に固執（AP通信）

【ボコタ7/5AP】昨年8月、大統領執務室でのベネズエラ制裁についてのミーティングの終わりに、大統領が側近たちにむかってビックリするような質問をした。急速に解体しつつあるベネズエラは地域への脅威だとしたら、米国が侵攻してしまうことがなぜできないのか。ティラーソン国務長官やマクマスター補佐官ら居合わせた側近たちは驚いた。2人とも今は政権を離れているが、これまで公開されていなかったその時の会話の内容を、よく知る高官が匿名を条件に明らかにした。

それによると、やりとりは5分ほど続いた。マクマスター補佐官らが軍事行動は逆の結果になりかねず、独裁化の道をすすんでいるとしてマドゥーロ政権を制裁することへのラ米諸国の支持を失わせる危険があると説明した。しかし大統領は押し返した。軍事計画を命じようとしている兆候はみせなかったが、1980年代のパナマやグレナダ侵攻のような過去に成功した砲艦外交について自分がどう考えているかを説明した。側近たちはなんとかしてあきらめさせようとしたが、大統領はこのアイディアに固執した。

翌11日、大統領はマドゥーロ政権排除の「軍事的選択肢」を口にして仲間も敵も驚かせた。公の言明は、政策担当者たちの間では、軍事的な虚勢として初めは捨て去られた。しかしその後すぐ大統領はこの問題をコロンビアのサントス大統領に持ち出した。トランプとの敵対を避けるため匿名を条件に、2人のコロンビア政府高官がこの報道を確認した。

そして9月、国連総会の外でまたその話をした。今度はもっと長く、サントスを含むラテンアメリカ首脳たちとのプライベート夕食会でのことだった。これは同じ3人が言明し、ポリティコが2月に報じた。米当局者によると、トランプは問題を取り上げないようにスタッフから説明をうけていた。うまくいかないといわれていた。しかし晩さん会で、「私のスタッフはこのことを言うなというのだが」と前置きして、本当に軍事解決を望んでいないのかと聞いて回った。当局者によれば指導者たちはみな本当だと明確に答えた。最終的にマクマスター補佐官は大統領の目をそらして、侵攻の危険をやり過ごした。

★2017/8/11 トランプ大統領の発言

ベネズエラについては多くの選択肢がある。ついでながら私は軍事オプションを排除しない。選択使はたくさんある。ベネズエラは隣国だ。米国は世界中に展開している。非常に遠いところまで軍隊を展開している。ベネズエラは遠くないし、国民は苦しみ、死んでいる。多くのオプションのなかには、必要な際の可能な軍事オプションが含まれている。

